



理研の趣味人シリーズ No.1 携帯電話× ×の達人

—携帯電話写真の達人を訪ねて—

「携帯電話を持つようになったのは、ここ一年なんですよ。」
もう随分前から、殆どの方が持っている携帯電話の写真の達人は、予想外にもニコニコとこう話してトリビア編集部の取材に応じてくださいました。



もともと、一眼レフカメラにマクロレンズをつければ、普通に撮れることは分かっていたのですが、一年前に携帯電話になってから『携帯電話のカメラでいかに綺麗に、どこまで近づいて撮れるか』に挑戦するようになり、携帯電話で撮影した写真を理研の写真部の展覧会に出品したり、[ご自身のHP](#)でも公開するまでになりました。

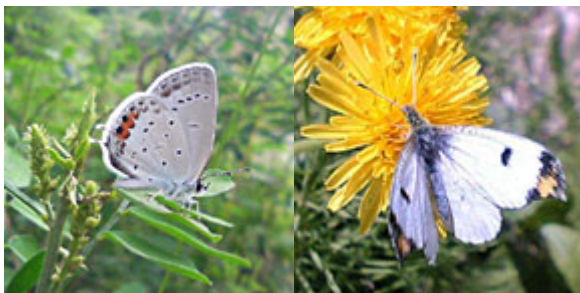
携帯電話のカメラ機能の良い点を伺うと「いつでも、身近に撮れるのでいいじゃないですか。高いところの撮影も片手で簡単だし、カメラと違って電卓もついているし。(?!)」なるほど、カメラだとはほど撮影に慣れていないと片手で撮影すると手ブレをして上手に撮るのが難しい。(筆者は両手で撮ってもブレる事が多い…。)

『携帯電話で見る虫たちの世界』 (理研の写真展で出品された作品)

- 左上: ヤマトシジミの交尾
 - 右上: シマズメノヒエにたたずむナナホシテントウ
 - 左下: ヒメアカタテハ
 - 右下: 毛虫を捕らえたサシガメ(カメムシの仲間)
- 撮影: au A5509T (TOSHIBA)



使っているカメラ(携帯電話)は写真手前の二つ。
後ろのパソコンでこれだけ大写しにしてもピントも合っていて、美しい写真が撮れます。

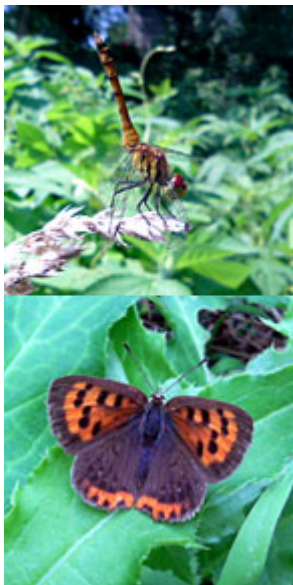


左: ツバメシジミ 右: ツマキチョウ

福田さんの撮影スタイルは、まずは被写体(主に昆虫)に「そ〜っと」近寄って、今度は体を動かさずに携帯電話を持った手だけをさらに近づけて行くやり方。被写体にピントが合う最短距離の 15センチ(官製はがきの縦が 15cm)まではとにかく「そ〜っと」を心がけ、じっくりゆっくり限界まで近づいたら、最後にやっとシャッターを押す。「シャッターを押すとシャッター音が出て、だいたいの被写体はどこかにいっちゃいます。なので、携帯電話のカメラでの撮影は、ワンチャンスなんですよ。」なんと！！携帯電話写真の撮影は、被写体までにじり寄る際の忍耐力とわずかなチャンスを生かす決定力が命なのですね。



蝶を撮るときは、動きを読んで、ベストポーズになる少し前にシャッターをきるという技も！！



上:ナツアカネ
下:ベニシジミ

「携帯電話だからフラッシュがあまり良くないので、歩いていて、色がいいなと思ったら撮っています。そのほかに、撮りたいと思う被写体を発見しても、明るさや動きの有無によってはうまく撮影できない事が予想できる場合もあります。もちろん、そういう場合でもチャレンジはしますがね。でも、その前にまず、被写体に気付く事ができるかという問題もありますが。」と携帯電話のカメラで撮影する福田さんならではの視点も語っていただきました。

最後にこれから撮影してみたい被写体は何ですか？という問いに、「ムラサキシジミを撮ってみたいです。以前、理研内で発見して撮ろうとしたのですが、早朝にも関わらず出勤される方の多い建屋の近くだったので、恥ずかしくて撮れなかったんですよね。」と、残念だったエピソードも教えてくださいました。

理研の構内で、片腕を精一杯伸ばして携帯電話を構えて、じ〜っとしている人を見かけたら、なるべくジロジロ見ないようにして、さりげなく見守るようにしてくださいね。